

ロビー展示

藤沢レオ

起源のモニュメント

*Leo Fujisawa
Monument to the Origin*

2021. 7.31 sat → 8.29 sun

[会場] 苫小牧市美術博物館 エントランスホール

[開館時間] 9:30-17:00 [観覧料] 無料

主催：苫小牧市美術博物館

協力：公益財団法人札幌市公園緑化協会、米澤煉瓦株式会社

— 木棒を立てることからはじまる、柱の物語。

藤沢レオ 起源のモニュメント

Leo Fujisawa Monument to the Origin

特別展「発掘された日本列島 2021」と連動する本展示では、各地の遺跡に見られる柱の跡や埋蔵物に着想を得た藤沢レオの新作《模刻のモニュメント》を紹介しします。苫小牧市内樽前地区を拠点に活動する藤沢は、2014年にはじめた〈場の彫刻〉のシリーズ以来、一貫して柱をモチーフにした作品を手がけています。原初の人間が文化的な生活を手にする、そのはじまりの象徴として柱を捉える藤沢は、「人間の祖先がはじめて大地に木棒を立てた瞬間の輝かしさ」をそこに仮託するとともに、いにしえより人の生命がいかにして受け継がれてきたかという「柱の物語」を紡ぐ場の創造を探求してきました。円形の鉄枠に内蔵する煉瓦の破砕物を土台とする本作は、柱ないし生と死の同一性を象徴するくるみの枝をはじめ、藤沢の手による埋蔵物の模刻が金彩のうえ、土の中から出てくるかのような状態で配置されます。埋蔵物を自らの手で模倣し作品化することについて藤沢は、当時の人々の創作の労苦や達成感を追体験したうえで、その表面に金彩を施すことにより、人類の起源と叡智を記念碑的に顕彰する意図がその背景にあると語ります。一方、本作ではあえて本金ではなく、時の経過により酸化し、やがて朽ちゆく素材である真鍮箔が金彩に用いられていますが、果たしてそこには変容し続ける価値観に対する疑念など、現代人とそれを取り巻く現代社会への問いかけが暗示されています。



◆ 参考図版

表面/画像合成によるイメージ	
a	a 《柱の研究》展示風景 洞爺湖芸術館、洞爺湖町、2020年
b	b 《柱の研究》のためのエスキス》2021年
c	c 《場の彫刻》(部分) 2020年
d	d 《クルミの岡伐のための石斧》2021年

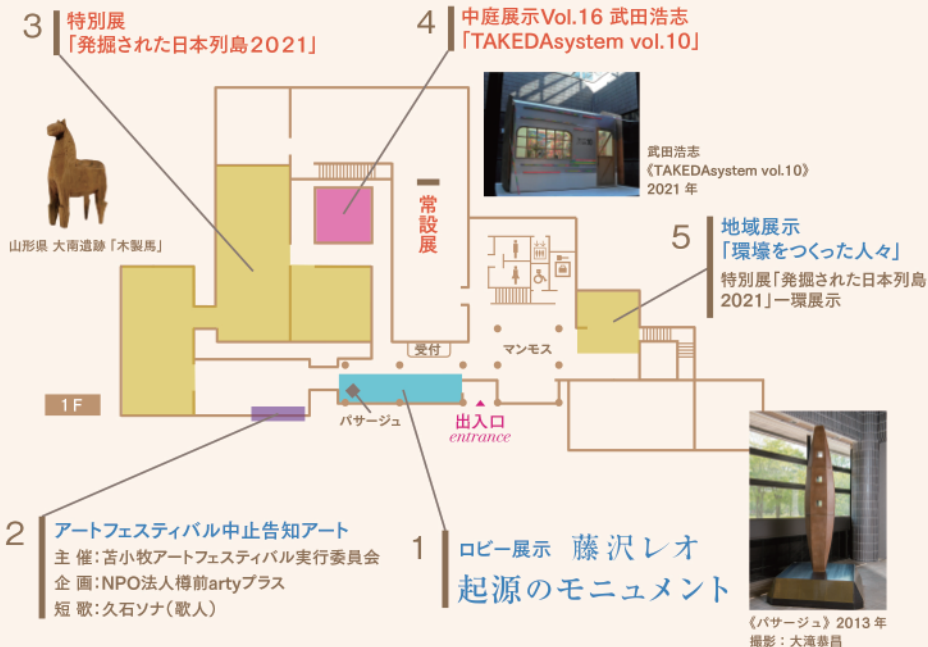
藤沢レオ | 金属工芸家・彫刻家 プロフィール

1974年北海道洞爺湖町生まれ、苫小牧市在住。1997年 道都大学(現星槎道都大学)美術学部卒業。鉄や木、繊維等を素材に、自身の死生観をもとに種子をモチーフとする《パサーージュ》、日常に隠れた空気や重力といった重要な要素を可視化する《不在の存在》などの彫刻、インスタレーションを制作。近年は柱や枝をモチーフとする《場の彫刻》に取り組み、人類の足跡や生存の起源、場に関する思索を作品化している。主な展覧会に個展「きのうと違う島」(洞爺湖芸術館/洞爺湖町、2020年)、個展「きのうと違う川」(茶廊法昌/札幌市、2019年)、個展「Still Living」(苫小牧市美術館/苫小牧市、2018年)、個展「リアス・アーク美術館/宮城県気仙沼市、2016年)、「思考するアート展 コトバノカタチ」(北海道立帯広美術館/帯広市、2015年) などがある。



【ご案内①】館内で開催の展示・展覧会

- ◆ 赤字の展示は有料、青字の展示は無料でご覧いただけます。
- ◆ 1～5の番号は推奨順路です。観覧券をお持ちのお客様は、併せて常設展もご覧いただけます。



【ご案内②】他館で開催中の藤沢レオ展

藤沢レオの個展がモエレ沼公園にて開催中です。

Imaginary Landscapes05

「藤沢レオ：Sculpture of Place 柱の研究」

会期/2021年7月22日(木・祝)～8月29日(日)

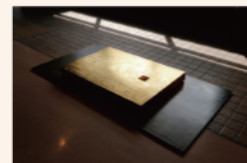
時間/9:00～17:00

会場/モエレ沼公園ガラスのピラミッド2Fスペース2 他

北海道札幌市東区モエレ沼公園1-1

入場/無料

主催/公益財団法人札幌市公園緑化協会 TEL.011-790-1231



《場の彫刻VII》2018年 撮影：山岸靖司
※ 参考図版

苫小牧市美術博物館

Tomakomai City Museum (愛称：あみゅー)

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

TEL. 0144-35-2550 FAX. 0144-34-0408

http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan

